

<b>〔科目名〕</b> 社会と人間	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 佐々木 てる	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b>
<b>〔科目の概要〕</b> 本講義は社会学の基礎的な思考を学ぶことを通じて、われわれが生活している社会がどのように成り立っているのかを考えるものである。 われわれの生活は様々な人間関係、そして社会的事実によって成立している。例えば、国家、資本主義、地域社会、家族など身近に感じるしくみは、あたり前に存在しているように思えるが、成立には歴史的背景や変化、変動が存在する。そうした普段あたりまえだと思っている、人間生活の仕組みや生活世界を、成立の過程から捉えなおし、社会の根本を考え直すことにする。 またこういった当たり前と感じている社会空間を捉えなおすことによって、現代社会で起こっている、様々な社会問題に対して、自ら立ち向かえる力を養ってもらう。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」</b> より複雑化する後期資本主義社会、もしくは成熟社会において、社会の仕組みや成り立ちを捉えなおすことは、今生活していることそのことについて決定的に重要である。国家はなぜ、いつできたのか。なぜわれわれは資本主義システムのもと生活しているのか。そもそも資本主義システムの根本は何か。家族とはなにか。教育とは、学校とは、地域とは、、、、こういったことを正面から考えることは普段あまり行わないだろう。こうした自分が置かれている社会そのものを考え直すことは、生きていく上で必須だと考えられる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 社会学の基礎的な考え方を学ぶことが到達目標となる。 具体的には、われわれの現代社会を成立させているシステムが何か。それはどのように私たちの社会に機能しているのかを学んでもらう。そのために、過去の社会学者の研究内容や理論なども学ぶことにする。 講義ではトピックごとに理解を深め、それを積み重ねてもらおう。そのため段階的に目標を設定する。①社会学的思考、社会学の仕事から。②基礎的な社会の仕組みを考える。資本主義、権力、国家など。③身近な社会を捉える。地域、家族、学校システムなど④グローバルな視点から考える。⑤社会問題とはなにか。おおよそこの5つのトピックを理解することを通じて、社会学的な考えを学ぶ。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> おおむね好評であったため、昨年と同様の形式で行う。わからない事は、自分で予習・復習すること。さらにわからなければ、直接質問してもかまわないで、自己努力もしてほしい。また要望、相談などあれば学期の途中で申し出てもかまわない。可能な限り対応していく予定である。		
<b>〔教科書〕</b> 特になし。授業中にレジュメなどを配布する。		
<b>〔指定図書〕</b> 特になし。		
<b>〔参考書〕</b> 授業中に多くの参考文献を紹介することとなるので、しっかりそれを聞いて、興味をもった本にあたってほしい。 なお社会学全般に関して予習、復習を行いたい場合、Aギデンス『社会学 第五版』(而立書房、1992年)を参考にする。また日本の社会学社会学者による図書としては、長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志『社会学』(有斐閣、2007)を参考にしてほしい。		
<b>〔前提科目〕</b> 特になし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 評価の方法に関しては、第一回目の授業で詳しく説明するため、必ずそれを聞いてほしい。 確認試験とレポート提出によって成績を決定する予定である。		

<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <p>本学の評価基準に準ずる</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>基本的には講義スタイルであり、しっかり聞き内容を理解することを望む。また、わからないことがあれば、積極的に質問を行ってほしい。特に社会学の基礎的な考えを学ぶにあたり、自分が常識と思っていることにとらわれず、常にそれがなぜ常識と思っているのかを考え直す姿勢を持って、授業に臨んでほしい。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会学の基礎①:社会学の対象</p> <p>内 容: 科目内容の確認、授業方針、成績の付け方など全般にかんするガイダンスを行う</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会学の基礎②:社会学の古典</p> <p>内 容: 社会学の古典から社会を捉えなおす。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会学の基礎③:社会学者</p> <p>内 容: 社会学者の業績を振り返り、社会学の系譜を理解する。その際、各研究者が社会のどの部分を見ていたか感がえる。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会学の基礎④:社会学のテーマ</p> <p>内 容: 社会学のテーマを確認し、社会学の対象としている「社会」を捉えなおし、復習する。 第1回 確認試験の予定</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 資本主義、階級、格差問題①</p> <p>内 容: 人間社会の大きな社会変化を捉えなおす。その第一として資本主義を考える。資本主義の成立、その特徴をとらえる。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 資本主義、階級、格差問題②</p> <p>内 容: 階級社会、労働問題について根本的な理解を深める。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 資本主義、階級、格差問題③</p> <p>内 容: グローバルな資本の問題、地域間格差、消費社会についての根本を理解する。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 資本主義、階級、格差問題④</p> <p>内 容: 現代日本の社会状況を資本主義の視点から分析する。特に格差社会とその内実について学ぶ。 第2回 確認試験の予定</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会変動①:国家と支配</p> <p>内 容: 前回に続き、社会変化を捉えなおす。国家というシステムを対象とする。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会変動②:社会秩序と権力</p> <p>内 容: 人間社会における社会秩序の変遷を、権力の視点から捉える。</p>

第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会変動③:日本国家の成立</p> <p>内 容: 国家、権力を学んだうえで、近代国民国家としての日本の成立と問題点を考える。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会変動④:グローバル化</p> <p>内 容: 国家と国際社会の関係を考える</p> <p>第3回 確認試験の予定</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会問題の社会学①:ジェンダー</p> <p>内 容: 社会問題とは何かを学ぶ。フェミニズム運動を考える。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会問題の社会学②:ジェンダーと差別</p> <p>内 容: 性差別を軸に、差別問題の根本を考える</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会問題の社会学③:ジェンダー、LGBTQ</p> <p>内 容: 近年のムーブメントとして、LGBTQ について学ぶ</p> <p>第4回 確認試験の予定</p>
試験	